

国際交渉の最新状況

-国連特別作業部会ボン会合の概要報告-

水野 勇史

市場メカニズムプロジェクト/気候変動領域
(財)地球環境戦略研究機関 (IGES)

ボン会合の概要

- SBI30 / SBSTA30 / AWG-KP8 / AWG-LCA6
 - ✓ 6月1日～12日の2週間
- 大きな進展はなし
 - ✓ 特にCDM/JIは議論に時間を割けず（8月会合に持ち越し）
- 「条文」形式による議論の始まり
 - ✓ 新議定書条文、京都議定書改正条文
- 数値ファイトの始まりの終わり
 - ✓ 会期中の日本の中期目標の発表

「条文」形式による議論の始まり

日本の新議定書提案(4月24日)

- COP会議開催の6カ月前(6月6日)が期限
- 他に米国、オーストラリア等、5つの提案

日本の京都議定書改正案(6月16日)

- COP/MOP会議による採択の6カ月前(6月17日)が期限
- 他にEU、オーストラリア、途上国共同提案等、12の提案

提案の内容例

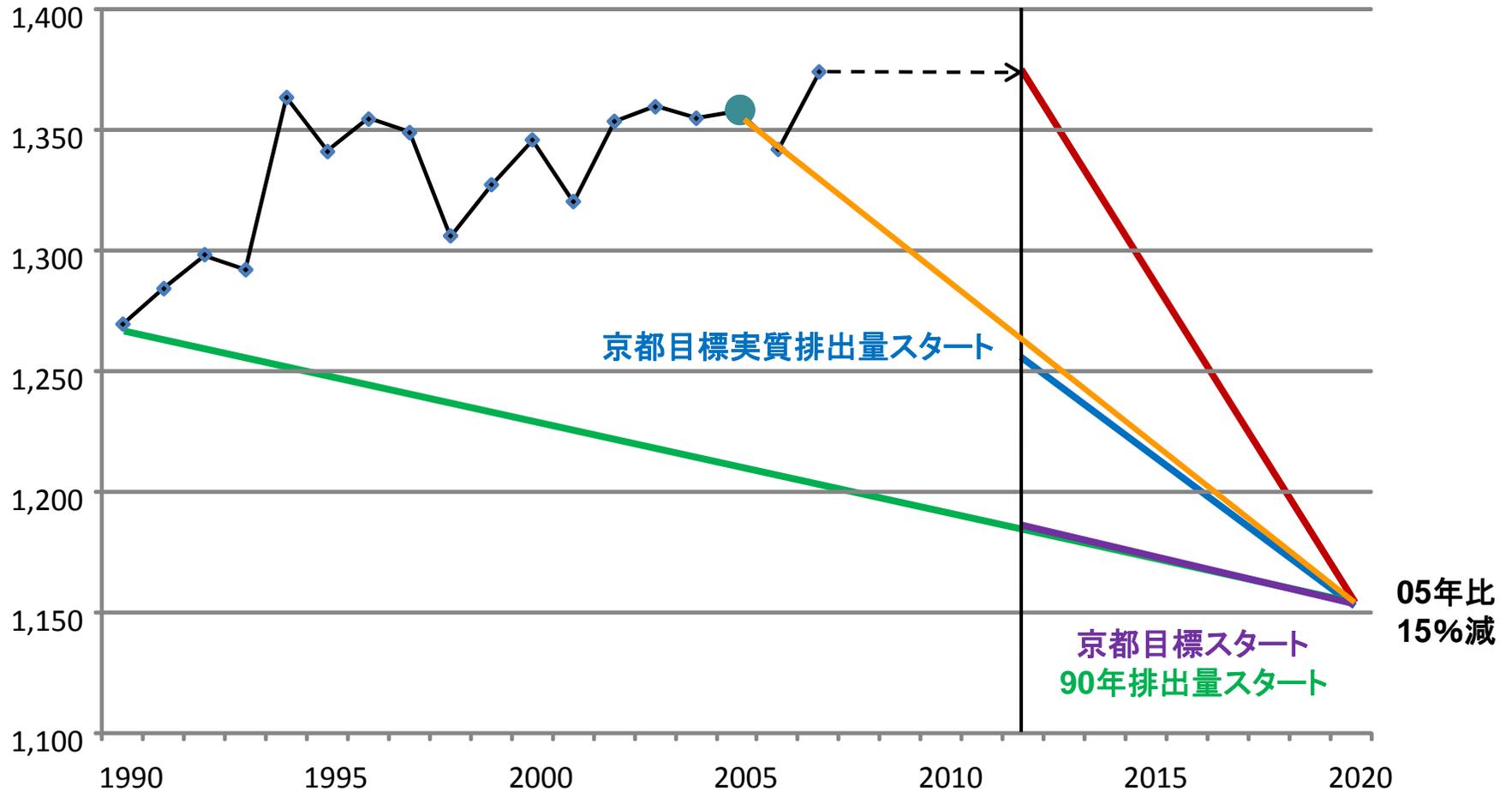
- 日本、豪州は、それぞれほぼ同じ内容を両方に提案
- 中国、インド、ブラジルを含む途上国37カ国の共同提案は
数値目標の改正のみ(2020年に1990年比で日本は-19%、
米国-26%等と明記)

数値ファイト(京都議定書改正交渉)

- ・ 数値目標とは
 - 国内削減＋森林吸収＋メカニズム(CDM含む)
- 「森林吸収」「メカ」が数値目標に影響するために一体的議論
 - ✓ それ以外にも、排出量計算方法、対象ガス等、数値目標に影響する技術的な論点がある
- 先進国全体で2020年までに1990年比25～40%減(IPCC Box 13.7)がよく「言及」される数字
 - ✓ これはオフセットを含まない
 - ✓ 中国は「少なくとも」40%減を主張

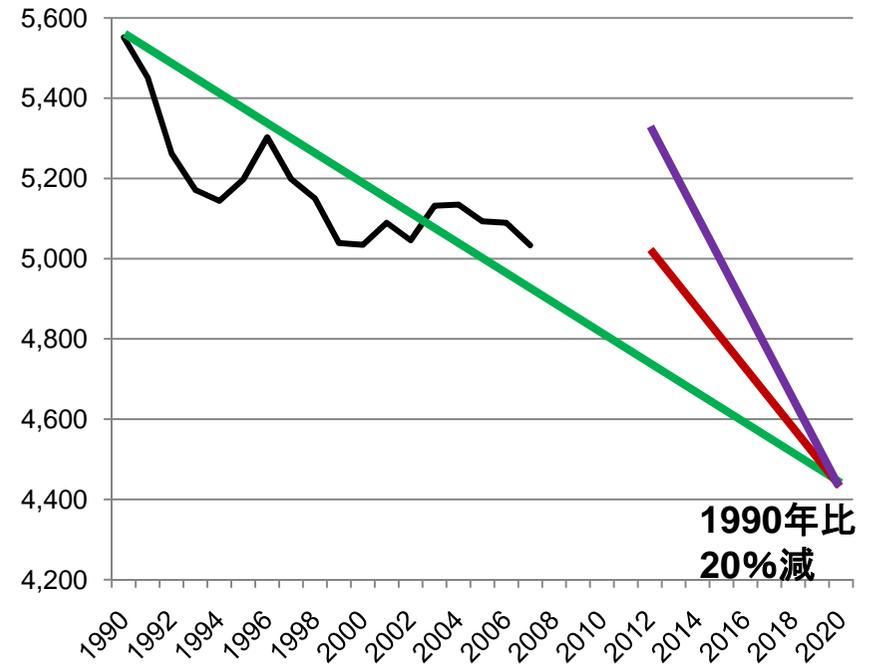
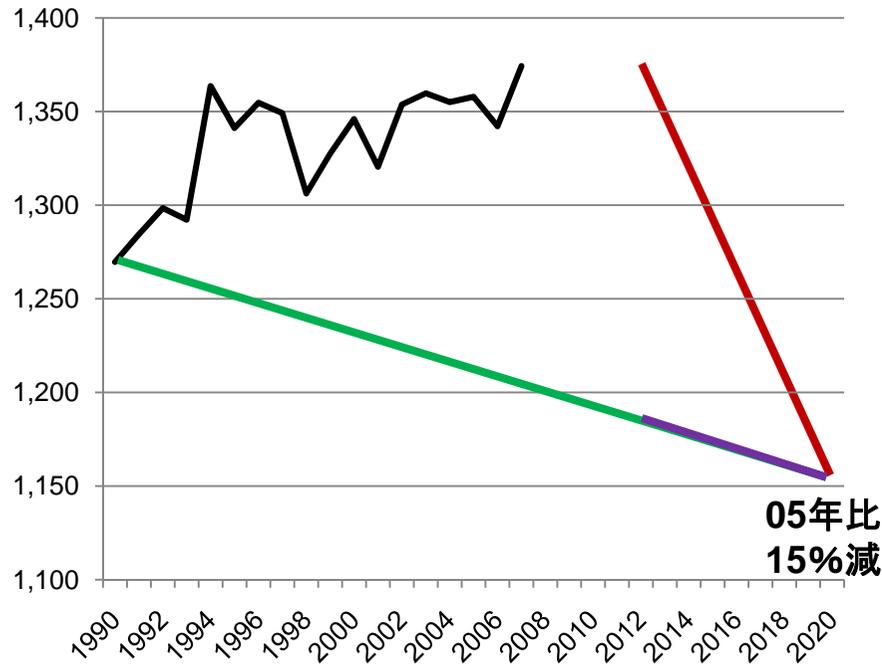
中期目標は1点目標

温室効果ガス排出量
(百万t/年)



日本とEUの違い

温室効果ガス排出量
(百万t/年)



07年排出量スタート

京都目標スタート

90年排出量スタート